

令和4年度 第11回江別市かわまちづくり勉強会 会議録(要点筆記)

日時 : 令和4年12月8日(水)18:00~20:30
場所 : 江別市コミュニティセンター 1F多目的ホール
会場参加者 : 23名
オンライン参加者 : 5名
事務局 : 経済部次長、商工労働課長、商工労働課主査(2名)、観光振興課長、建設部管理課参事、土木事務所治水課長、治水課主幹
その他 : 北海道開発局 札幌開発建設部 江別河川事務所(4名)

会議概要

1. 開会

2. 議事

事務局より下記内容について説明

(1) 前回勉強会の議事内容・主な意見について

(2) これまでの意見を踏まえた取組イメージについて

(3) かわまちづくりロードマップについて

北海道情報大学藤本ゼミよりかわまちづくりに関する取組み(ぶかぶか実証実験)について説明

(4) 旧岡田倉庫(外輪船)の現状と利活用状況について

(5) 旧岡田倉庫(外輪船)等の利活用に関する主な意見

(6) 旧岡田倉庫(外輪船)周辺の整備・景観イメージ

ミズベリング江別 林代表に司会進行を委任

(7) 意見交換

参加者を A~B の 2 グループに分け、下記について意見交換を実施

①旧岡田倉庫(外輪船)や周辺の整備・利活用方法について(旧岡田倉庫等の整備・利活用の具体化と運営体制:どう使う?どうやってマネジメントする?)

【意見交換内容の発表:A グループ】

旧岡田倉庫の移転先の前のスペースにベンチやテーブルを置いて、おいしいコ

ーヒーとか飲めるといいかもしれない。落雪距離を踏まえてのスペースだとは思いますが、夏場はいろいろな人の居場所として有効に使えると思う。身障者用の駐車場としても利便性は良く、仮に駐車場とするのであれば、このスペースで十分なのかどうか検証する必要がある。移転先の裏に 4t トラックが入るようなスペースがあるが、管理上利便性の良い場所も裏に確保しつつ、前も有効に使うというのが重要である。裏側のスペースは、野外ステージや催しものができるし、町から来て目の前に堤防の斜面があって、空が広がるという部分で新しいメインストリートや隠れ家的なスポットになると思う。

移転後の旧岡田倉庫は、屋根のところに窓がなくなっているので、雪が早く落ちてくるのではないかと。雪止めするなり、屋根に断熱材を入れるなり、下にいる人が危険にならないように、安全面の対策は必要である。当時の形に戻すという方向性に対して安全性をきちんと考えて、今後計画していく必要がある。

レンガやうだつといった歴史的資源もそこに見えるような形にして、歴史性も踏まえた上で新しいストリートや広場等を作っていくとよい。

【意見交換内容の発表：B グループ】

旧岡田倉庫が、現在の場所から人目のつきやすい道路側に移転されるということで、条丁目地区以外の人にも知ってもらえると思う。移転先の裏のスペースも使えるので、場所としては問題ないと思う。

大学生が活動できる場所が条丁目地区にはないので、例えば、大学生が企画して、試行的に常設または半常設で市場として使ってみるのもありだと思う。

堤防が整備されて親しみが持てる空間になるということで、子どもの遊び場は欲しい。堤防整備が進めば、斜面を利用したそり滑りもできるかもしれない。

旧岡田倉庫周辺ですべてを賄う必要はないが、コミュニティセンター等多少遠くても何台か駐車場を確保することを考えていく必要がある。

条丁目地区は、年配の方が多く住んでいるが、子育て世代も増えているので、幅広い年齢層を見据えた活用を考えていく必要がある。例えば、旧岡田倉庫をママ友が集まるようなカフェや、地域の人達が交流できる場所にしていきたい。

江別市民でも、旧岡田倉庫のことをあまり知らないなので、かわまちづくりを機に多くの市民に旧岡田倉庫を知ってもらうための取組みを実施していく必要がある。

②かわまちづくりでやってみたいことについて(前回の勉強会を踏まえ、かわまちづくりでやってみたいこと:どうやる?どうやってマネジメントする?)

【意見交換内容の発表：A グループ】

条丁目地区出身の若者二人を中心に、意見が盛り上がった。次の条丁目地区を担う若者五人ぐらいでチームを作って、意見を出し合いながらプランニングをし

ているという話をいろいろ聞かせてもらい、若者の情熱を感じた。

一番手っ取り早くやりたいのは、千歳川をジップラインで繋ぎたい。以前の勉強会でも議論したが、石狩川・千歳川合流点の高水敷をキャンプフィールドやグランピングサイトにして、常設のテントやピザ窯も設置して、都市の中でもアウトドアを楽しめるような場所を作ってブランディングしていけば、一定のニーズは出てくると思う。テラスや星が見えるような展望台を作ることができたら、工場夜景や夕日が沈む景色を見られる。高水敷に向かう道を整備して、ワクワクを醸成したい。ランドスケープデザインといった空間デザインが必要になってくると思う。カフェでコーヒを楽しむ場所があってもよいと思う。

北海道情報大学の実験規模を拡大して、渡し船のように対岸まで行けるようなプロジェクトをベンチャー的に実施するのも面白いと思う。川から空を見るといったことにも繋がっていくと思う。

夜空の中に浮かぶこいのぼりもあってもいいと思う。ドローンを飛ばして、光るこいのぼりが泳いでいるような光景やスカイランタンのようなものでもよい。飛ばさないまでも、川で灯籠流しのような光る風物詩を作るのも面白いと思う

JR 江別駅や神社、蔦屋書店等と川をしっかりと繋いで、この街全体の価値を上げていくのがとても大事だと思う。それぞれ良いところがたくさんあるので、人の流れが生み出せる仕掛けをみんなで作っていくのが、非常に大事な視点だと思う。

【意見交換内容の発表：B グループ】

今後、社会実験としてどのような取り組みができそうかについて話をした。例えば、水中ドローンを活用して千歳川にどれくらいの生物がいるのかといった調査をかわまちづくり事業として実施し、旧岡田倉庫からその調査結果を発信することによって、地域の人々の理解や川での子ども向けの環境教育にも繋がっていくと思う。

以前の勉強会で意見のあった千歳川を使った通勤について、通勤手段としての可能性を検証する社会実験ができればよいと思う。水上自転車等の水上アクティビティに関する社会実験も実施してほしい。

堤防だけでなく、JR 江別駅や江別神社等の拠点施設をライトアップして繋げるといった、地域の賑わいを見せる取り組みも良いと思う。

整備面の議論が進んでいる一方、運営面については何も決まっていないのが課題である。民間企業が公共施設を運営している例もあるが、旧岡田倉庫については地域の人達や勉強会に参加している人たちに実際の運営に関わってほしい。今後、社会実験を繰り返していくことで、運営のイメージが徐々に見えてくるのではないかと思う。

(8) 総括(小篠会長)

旧岡田倉庫の移設位置が具体的に見えてきて、私たちの拠点としてどのような

使い方ができるかという話をひとつの軸足にしながら、周辺や堤防、対岸といった地域全体のことを考えてみようかという流れになってきて、議論の熟度が少し上がって着実に進歩していると思う。社会実験を行ってまだまだ課題はあるものの、実際に何かをやってみたというのが大きくて、可能性みたいなものを感じる。

かつて、江別は川と一体化した街だったが、堤防が完成してから対岸との関係が分断され、国道 12 号も違う位置に架け替えられてしまった。だが、ここへきて、このままではこの街はダメになってしまうので変えていかなくてはならないというところが地域の人達で共有化されてきているのだと思う。この地域全体の価値を高めていくためには、川と一体となった暮らしというアイデンティティを取り戻すという意思表示が重要である。

現在動いている設計に意見をどう反映していくか、これからどんどんステップアップしていくと思うので、今後もいろいろと議論しながらレベルを上げていきたいと思う。

3. 閉会

以上